

「CAN-DO リストを活用した外国語教育」

札幌市立啓明中学校

■はじめに

本校は平成 26 年度より、外国語指導助手通年配置による活用推進校の事業に携わってきている。

平成 25 年、文部科学省初等中等教育局発行の『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』には、「外国語教育における CAN-DO リストの形での学習到達目標は、日本の全ての中・高等学校において作成することが望まれる」と明記されている。

このことから外国語指導助手活用推進事業に携わっている本校においては、教育センターからの CAN-DO リスト作成及び活用をとの要請を受け、平成 26 年度から CAN-DO リストの作成を行ってきた。作成にあたってどのように進めていくかということが教科会で話し合われたが、最初は教師間でも様々な考えがあり、作成には時間を要した。作成にあたっては CEFR、CEFR-J、英検 CAN-DO リスト等を参考にして、本校独自の CAN-DO リストを作成していった。年度の終り頃にはある程度教師向けの CAN-DO リストを完成させたが、実際には授業の中で生徒に説明し、より活用できるようなものに更に改善していく必要があるという結論になった。教科内で再度共通理解を図り、平成 27 年度には単発的なものではなく、長期的な展望で生徒・教師共に活用できる CAN-DO リストに改良した。それに伴い、年度計画や学習計画等の見直しを行い、パフォーマンステストの実施方法や時期等の設定、CAN-DO リストの活用、生徒への説明方法なども全て教科会で検討し、共通理解の上で、平成 27 年度は 4 月から実施するに至った。その折りに、この研究開発事業に参加することも決まったので、学期ごとに分析した結果からわかる本校の実態や今後の改善策等を分析する機会としていきたい。

■日常の実践指導の工夫

近年、本校の英語科として取り組んでいるのは、従来の教師主導による Input 中心の授業から、①教師 (ALT)―生徒、②JTE―ALT、③生徒同士の対話といった、教室内のインタラクションを実現する活動を主体とし、共同学習を活動のデザインに取り入れ、学び合いの深化を図ることで、使える英語を身に付けさせる授業づくりである。これは本校の研究主題ともリンクしている。このことから各学年において、言語活動を充実さ

と考えている。目標の達成は、単元の中で達成されると思われるものもあれば、複数の単元を経たり、1 学期間にわたって指導を加えたりした後に達成されるものもある。従って、評価場面は「活動の観察」「ワークシート」「定期テスト」など観点別学習状況の評価に資するよう日常の授業との関連で行われるように配慮するとともに、評価機会はできるだけ多く設定できるようにした。また、ALT との Team Teaching の利点を活かした「パフォーマンステスト」を計画的に実施し、評価に反映させることとした。

実践例としては、スピーキングテストである。スピーキングテストに関しては CAN-DO リストの学習到達目標を達成するために教科書の活用の仕方を工夫する内容で各学年の状況に合わせたテストを実施した。3 年生では教科書の Speaking の題材を利用して、レストランでの注文、デパートでの買い物の二つのパフォーマンステストを行った。Speaking interaction を意識した活動を心掛けた。教科書の会話をベースにしているが、少し実際に近い場面に変更し、テストを始める前にレストランであればオーダーしたいメニュー、デパートであれば買い物したいものが書いてあるカードを 1 枚ずつ引かせて、それについての情報でお互いにやりとりをするという方式で行った。ただ暗記した会話のやりとりをするのではないので、その場で考えて相手とやりとりをするということで、実際の場面に近づく内容になる。そのことで緊張感があるが、生徒にとっては実際の場面では臨機応変に対応しなければいけないことを理解することができる。実際にテスト後の振り返りシートでは、そのような感想を記入し、英語が話せるようになりたいという感想をもった生徒もでてきていることも分かった。これも一つの成果と考える。

他の実践例としては、リーディングテストを各学年共通の評価基準で行っている。スピーキングテストと同様に事前に評価基準の説明を行った上で、ALT による音声指導後、授業内でも音読練習を行い、テストをするという流れである。教科書の本文の音読であるので、下位の生徒でも懸命に取り組もうとしていた。どちらのテストも評価に関しては CAN-DO リストに沿った評価基準を意識し、テスト終了後には自己評価もさせ、振り返りシートを記入することで、次回のテスト

への課題などを自己分析させた。また次回のテストへの教師側の改善点等にも使用することができた。リーディングテストは全学年共通の評価基準なので、進級後も自己の学習到達度を比較する資料として活用することができる点がメリットである。

■教科書との関連

できるだけ教科書に沿った授業を展開していく中で、どの単元でどのような評価を行うかを年度当初に設定している。評価場面を迎える前提として、例えば帯活動での音読・暗唱・ペアワークなどで練習し、習熟（聞いてわかる・自分で言える）を図る必要がある。そのためには教科書の活用を工夫しつつ、教科書以外の題材も加えるなどして、言語活動を計画し、授業を実際のコミュニケーションの場を設定していくように努めた。

■評価の工夫

4月のオリエンテーションの時間に生徒には年間学習計画予定表を配付している。年間学習計画の中には4技能のテストがいつ行われるかがわかるように示してある。それに併せて、通常評価とCAN-DOリストの達成度合いがリンクするようにしている。

例えば、前述した3年生で実施したSpeakingの題材を利用したレストランでの注文のパフォーマンステストでは、通常の評価では、「関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力」の3観点の項目を評価している。またCAN-DOリストのチェック項目の話すことでは「レストランの場面で教科書のスキット例を参考にしながら注文したいものを頼むことができる」という部分を自己評価することになっている。相互の評価や達成度合いを見ることで、日常の活動の中での重点の置き方や達成度合いが低い部分をどのように伸ばしていくかということを検討できる材料となる。

■成果と課題

教科内で共通理解を図った上で、4月からCAN-DOリストを実施していったが、リーディングテストを全学年共通で進めていけたことは大きな成果であったと考える。その他のパフォーマンステストについては、学年ごとには評価の信頼性があるように、できる限り互いの授業に参加し、教員2名以上で評価をする等、評価方法を共有できたことは非常に重要だと実感した。また、生徒と教師が外国語の学習目標を共有することで、卒業時までどのような力を身に付けることを目標にしているかということを確認できる材料とはなっていた。しかし、パフォーマンステストを実施する際には、CAN-DOリストのチェック項目等を意識することはできたが、通常の授業で常に確認し、教師生徒

共に何ができるようになるかということ意識して学習したり、指導と評価を行ったりすることまでには至ってはいなかったという反省点があがっている。また各学年のチェックリストについてはチェック項目がやや細かすぎる点があったことやそのチェックリストの項目に沿ってパフォーマンステストの実施を行っていったが、実施時期や回数についても計画どおりになかなか進まないことがあったので、来年度に向けては項目の見直しや、より計画的に進めていくことが必要である。

各学期、各学年で、生徒は実際にCAN-DOチェックリストを使用して自己評価を行った。今回は、3学年の2学期末の段階でのチェックリストの各項目についての分析を行い、別紙の資料1にデータをまとめた。

「読むこと」からわかることは、教科書の本文の内容理解は約90%以上の生徒が概ね理解できると評価しているが、音読の部分になると音声に関することで、概ねできると自己評価する生徒が半数以下になるという結果が出ている。「聞くこと」では、時制に関する聞き取りは60%近くの生徒が3の「できる」と評価しているが、特定の場面設定での聞き取りになると、3の「できる」と評価している生徒が極端に減少する。「話すこと」は全体的に3の「できる」と評価している生徒がほかの領域に比較すると劣っている。特に「聞くこと」と同様に特定の場面設定になると評価が極端に下がっている。「書くこと」は調査した段階では、1項目の評価であるが、1の「できない」と評価している生徒が20%近くもいる。

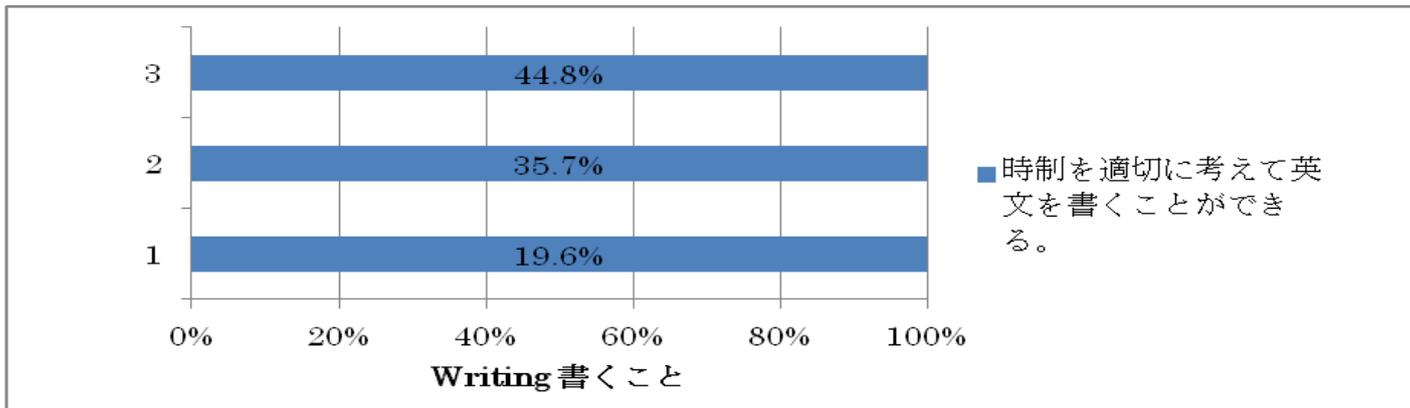
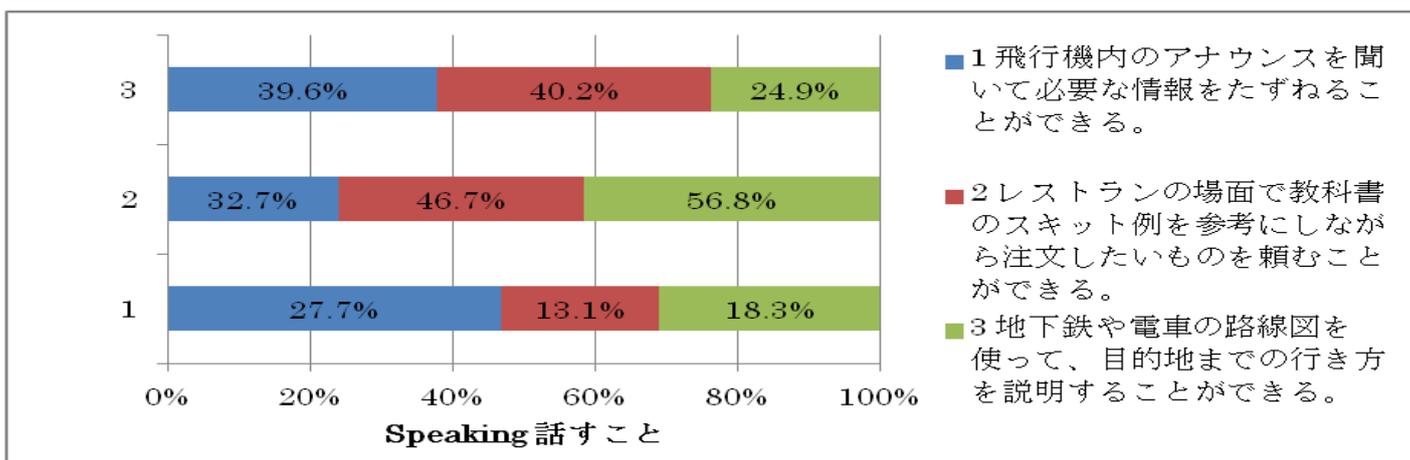
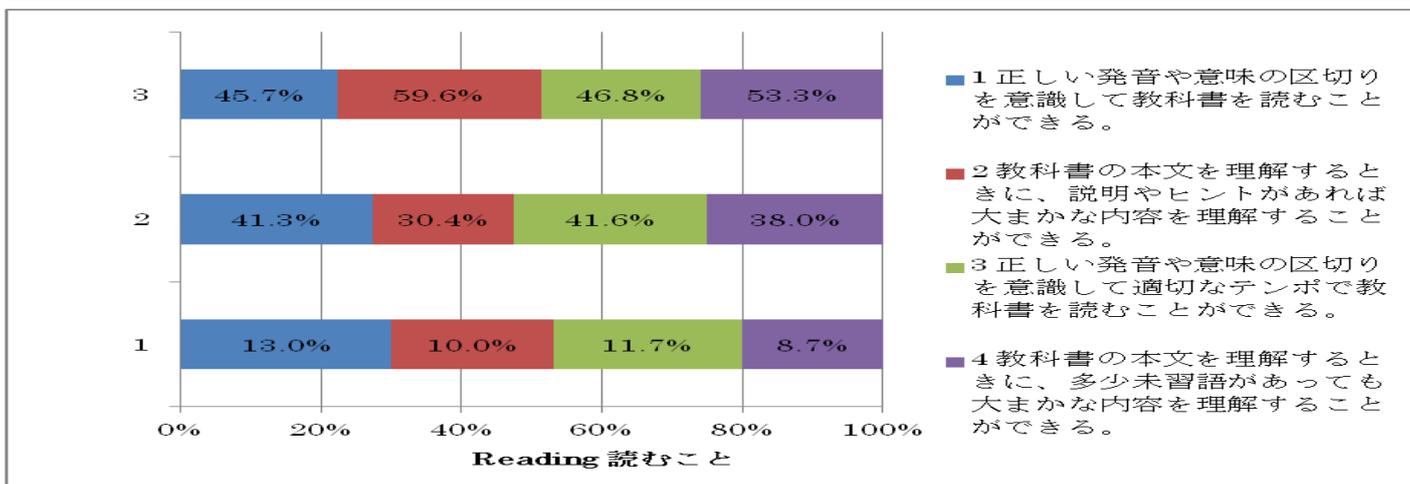
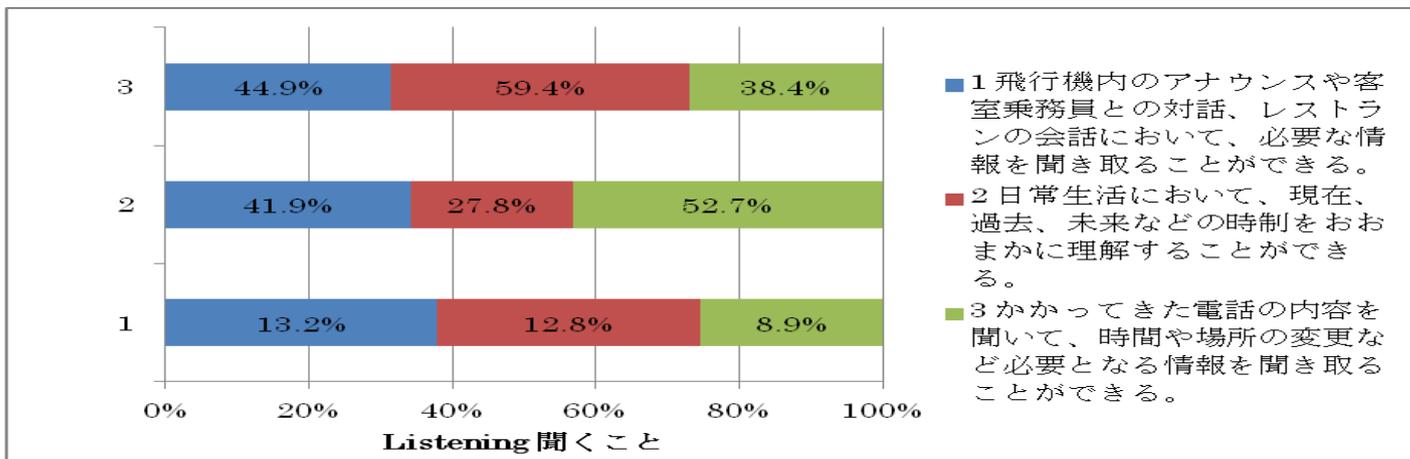
年度当初に毎年実施されているNRTの結果では、本校の生徒は「聞くこと」「話すこと」「読むこと」の能力が「書くこと」の能力と比べるとやや劣っているという傾向が見られる。日常の授業の様子やテストでは表現の能力（会話、英作文）、まとまった英文を正しく読み取る力が弱いことから、理解、表現の能力の向上を課題としているが、NRTの結果も含め、生徒がCAN-DOチェックリストで行った自己分析の結果と、必ずしもリンクしていないことも多いので、様々な結果を再度分析した上で、来年度に向けてのCAN-DOリストの作成が必要である。

また、来年度は教科書が改訂されるので、それに伴って、年間指導計画の作成等をした上での、CAN-DOリストの作成を行う必要がある。改訂された教科書の付録にCAN-DOリストが添付されているものもあるので、これも参考にした本校独自のリストの作成をしていく予定である。

資料 1

CAN-DO リスト 3 年生分析結果（2 学期月末現在）

3 できる 2 なんとかできる 1 できない



札幌市立啓明中学校 英語科 CAN-DO リスト

< 中学校卒業時の学習到達目標 >

- 「初歩的な英語を聞いたり読んだりして、情報を正確に把握したり、話し手や書き手の意向などを理解したりすることができる。」
- 「初歩的な英語を用いて自分の考えや気持ち、事実などを話したり書いたりすることができる。」

< 第 1 学年の学習到達目標 >

「小学校外国語活動を踏まえ、初歩的な英語を用いて自分のことや身の回りの出来事についてコミュニケーションを図ることができる。」

	Level 1	Level 2	Level 3
話すこと	□日常生活のとても身近なことについて、基本的な強勢やイントネーションに注意して話すことができる。	□自分のことや身の回りの物など、身近な話題について簡単な対話をすることができる。	□日常生活における身近な話題について、簡単な英語でスピーチをしたり、質問に答えたりすることができる。
書くこと	□アルファベットの大文字と小文字、符号や語と語の区切りなどの書き方のルールを理解し、正しく使うことができる。	□日常生活の身近な単語を正しく書いたり、簡単な文構造を活用して単語を正しく並べ替えて書いたりすることができる。	□文のつながりや構成を考えて、自分や身近な人や物を紹介する3文以上の英文を書くことができる。
聞くこと	□教師の英語による指示や身近な単語を聞いて理解することができる。	□ゆっくりと話される簡単な英語を聞いて、その内容をおおむね理解することができる。	□強勢やイントネーション、区切りなどの特徴を捉えて、簡単な英文の内容を適切に聞き取ることができる。
読むこと	□アルファベットや日常生活の身近な英単語を正しい発音で読むことができる。	□強勢、イントネーション、区切りなどに注意して、簡単な英文を正しく音読することができる。	□身近な話題についての短い文章を読んで、概要や要点を捉えることができる。

※「まとまりのある英文」とは、文と文とがつながりを持ち、かつ順序立てて構成された文章のこと。

※観点別学習状況の評価における 4 つの観点のうち、「CAN-DOリスト」形式での学習到達目標は、「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」について設定する。

<中学校卒業時の学習到達目標>

- 「初歩的な英語を聞いたり読んだりして、情報を正確に把握したり、話し手や書き手の意向などを理解したりすることができる。」
- 「初歩的な英語を用いて自分の考えや気持ち、事実などを話したり書いたりすることができる。」

<第2学年の学習到達目標>

「第1学年までの学習を基礎として、初歩的な英語を用いて事実関係を伝えたり、物事について自分で判断したりした内容についてコミュニケーションを図ることができる。」

	Level 1	Level 2	Level 3
話すこと	□身近な人や物について紹介・説明したり、その内容についての質問に適切に答えたりすることができる。	□過去の出来事や未来の予定などについて、聞き手に正しく伝えたり、聞き手からの質問に適切に応じたりすることができる。	□身近なテーマについて、相手に伝わるように話したり、受け取った情報に関連した質問をしたりすることができる。
書くこと	□過去の出来事や未来の予定などについて、読み手に正しく伝わるように英文を書くことができる。	□自分の住む地域について、文のつながりや文章の構成などを意識してまとまりのある英文を書くことができる。	□身近なテーマについて、読み手に伝わりやすいように、表現を工夫した文章を4文程度の英文で書くことができる。
聞くこと	□簡単な紹介文やインタビュー等を聞いて、大切な部分を聞き取ることができる。	□過去の出来事や未来の予定などについて話された英文を聞いて、情報を適切に聞き取ることができる。	□身近な話題に関するまとまりのある英文（アナウンス、天気予報等）を聞いて、必要な情報を適切に聞き取ることができる。
読むこと	□簡単な物語文や説明文について、話の展開を読み取ることができる。	□伝言や手紙、メール文などを読んで、書き手の意向を理解し、適切に応じることができる。	□まとまりのある英文（短い物語文等）を読んで、その概要や書き手の意向を読み取り、要点を把握することができる。

※「まとまりのある英文」とは、文と文とがつながりを持ち、かつ順序立てて構成された文章のこと。

※観点別学習状況の評価における4つの観点のうち、「CAN-DOリスト」形式での学習到達目標は、「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」について設定する。

<中学校卒業時の学習到達目標>

- 「初歩的な英語を聞いたり読んだりして、情報を正確に把握したり、話し手や書き手の意向などを理解したりすることができる。」
- 「初歩的な英語を用いて自分の考えや気持ち、事実などを話したり書いたりすることができる。」

<第3学年の学習到達目標>

「第2学年までの学習を基礎として、初歩的な英語を用いて様々な考えや意見などについてコミュニケーションを図ることができる。」

	Level 1	Level 2	Level 3
話 す こ と	□身近な場面で、相手に勧めたり、応じたり、断ったりするときの表現を正しく用いて話し、意向を伝えることができる。	□身近なテーマについて、自分の立場や賛否を示し、その理由を述べたり、感想等を話したりすることができる。	□身近なテーマについて、自分の意見や主張をまとめ、分かりやすく話したり対話したりすることができる。
書 く こ と	□身近な内容の英文について、疑問文やそれに対する答えの文を主語と動詞を用いて正しく書くことができる。	□身近なテーマについて、自分の立場や賛否を示し、その理由を書くことができる。	□身近なテーマについて、自分の意見や気持ちを入れたまとまりのある5文以上の英文を書くことができる。
聞 く こ と	□質問や依頼など、話されている内容を聞いて、話し手の意向を理解し、言葉や動作で適切に応じることができる。	□説明文や議論・対話等を聞いて、要点や対話の流れ、説明の大切な部分や趣旨などを理解することができる。	□まとまりのある英文（会話やアナウンス等）を聞いて、全体の概要や内容の要点を正確に捉えることができる。
読 む こ と	□図や表を含む英文を読んで、必要な情報を把握し、その概要などを読み取ることができる。	□まとまりのある英文（説明文等）を読んで、内容を正確に読み取ることができる。	□様々な文章（物語文や説明文等）を読んで、その概要や要点を理解するとともに、書き手の意向に対し自分の意見をもって読むことができる。

※「まとまりのある英文」とは、文と文とがつながりを持ち、かつ順序立てて構成された文章のこと。

※観点別学習状況の評価における4つの観点のうち、「CAN-DOリスト」形式での学習到達目標は、「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」について設定する

CAN-DO CHECK LIST for GRADE 1

自分の学期の様子を振り返って、チェックしましょう。(3:できる 2:なんとかできる 1:できない)

CAN-DO STATEMENTS		1学期	2学期	3学期
Listening 聞くこと				
1	アルファベットを聞いて、どの文字か理解することができる。			
2	身近な単語を聞いて、その意味を理解することができる。(dog/eat/happy)			
3	日付や曜日を聞き取ることができる。			
4	日常生活の身近な数字を聞き取ることができる。(時間・年齢など)			
5	日常的なあいさつを理解することができる。(例: How are you?/Nice to meet you.)			
6	授業で使われる指示やALTの簡単な質問の内容を理解することができる。			
Reading 読むこと				
1	アルファベットの大文字・小文字を読むことができる。			
2	ピリオド(.), コンマ(,), 引用符(" "), 疑問符(?), 感嘆符(!)を理解することができる。			
3	日常生活の身近な単語の意味がわかる。(例: dog / eat / happy)			
4	日常生活の身近なことを表す簡単な文を理解することができる。(例: I play tennis every day.)			
5	習った単語を使った文であれば、まとまりのある英文を読んで			
Speaking 話すこと				
1	アルファベットを発音することができる。			
2	日常生活の身近な単語を発音することができる。(例: dog/eat/happy)			
3	日常生活の身近な単語を言うことができる。(時間・日付など)			
4	簡単なあいさつをかわすことができる。(例: Good morning. / See you.など)			
5	whatやwhoなどを使って、身近な人やものについて簡単な質問をすることができる。			
6	2～3文の英語で、人やものについて紹介することができる。			
7	授業で使われる簡単な英語の質問に相手に伝わるように答えることができる。			
Writing 書くこと				
1	アルファベットをブロック体で書くことができる。			
2	アルファベットの大文字・小文字や符号を適切に使うことができる。			
3	日常生活の身近な単語を書くことができる。(例: dog/eat/happy)			
4	習った単語を使って、2～3文の英語で自分を紹介することができる。			
5	習った単語を使って、2～3文の英語で周りの人やものを紹介することができる。			

CAN-DO CHECK LIST for GRADE 2

CLASS NO. NAME

自分の学期の様子を振り返って、チェックしましょう。(3:できる 2:なんとかできる 1:できない)

CAN-DO STATEMENTS		1学期	2学期	3学期
Listening 聞くこと				
1	短い英文(日記、天気予報など)を聞き、ある程度内容を理解することができる。			
2	ALTに簡単な英語で何を聞かれたか、どんなことを頼まれたかわかる。Sp1 PT②			
3	ALTへ質問し、答えてくれた内容をだいたい理解することができる。			
4	短い会話を聞いて、何について話しているのか理解することができる。			
5	道案内を聞いて、目的地への行き方を知ることができる。Sp4 PT⑤			
6	買い物に必要な情報を適切に聞き取ることができる。			
7	相手の話を聞いて、伝えたいことを理解できる。			
Reading 読むこと				
1	短い英文(日記、メールなど)を読んでだいたいの内容を理解することができる。			
2	日常生活の身近なことを表す文を理解することができる。			
3	習った単語を使った英文であれば、内容を考えてまとまりのある文を読むことができる。			
4	物語の大切な部分を考えて読むことができる。Pro4 RT①			
5	日常の場面にあった読み方ができる(電話、レストランでの注文など)。RT②			
6	意見が書かれた英文を読み、相手の考えを読み取ることができる。			
7	人や物についての紹介文を読んで、大切な部分を正確に読み取ることができる。			
Speaking 話すこと				
1	自分について簡単な紹介をすることができる。(休日にしたことや予定など)			
2	ALTに3つ以上英語で簡単な質問をすることができる。			
3	身近なものについて英語で簡単に紹介をすることができる。			
4	電話で買い物に誘ったり、待ち合わせ場所について英語で話すことができる。Sp1 PT②			
5	英語で道案内をしたり、道を尋ねることができる。Sp4 PT⑤			
6	自分の将来について英語で、考えが伝わるようにスピーチをすることができる。MP5 PT⑥			
7	図やグラフからわかることを英語で2つ以上伝えることができる。			
8	テーマにそって、接続詞や副詞をつかって自分の考えを英語で伝えることができる。			
Writing 書くこと				
1	短い文であれば、英語の語順で書くことができる。			
2	習った単語を使って、自分についてまとめた英文を書くことができる。			
3	聞きたいことや伝えたいことについて、習った単語を使って書くことができる。W2 PT③			
4	文のつながりを考え、辞書を使ってまとまりのある英文を書くことができる。MP5 PT⑥			
5	文と文を接続詞(and/but/when/becauseなど)でつなげて書くことができる。			

CAN-DO CHECK LIST for GRADE 3

自分の学期の様子を振り返って、チェックしましょう。(3:できる 2:なんとかできる 1:できない)

CAN-DO STATEMENTS		1学期	2学期	3学期
Listening 聞くこと				
1	飛行機内のアナウンスや客室乗務員との対話、レストランの会話において、必要な情報を聞き取ることができる。L1			
2	日常生活において、現在、過去、未来などの時制を大まかに理解することができる。L2			
3	かかってきた電話の内容を聞いて、時間や場所の変更など必要となる情報を聞き取ることができる。L5			
4	日本の伝統文化について話される内容を大まかに理解することができる。L6			
5	買い物の場面で、色や、サイズ、デザインなどについて店員に質問される内容を聞き取ることができる。L7			
6	駅や空港でのアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。L7			
7	物語や説明されている内容の英語を聞いて、大まかな概要を理解することができる。			
Reading 読むこと				
1	正しい発音や意味の区切りを意識して教科書を読むことができる。RT①、②			
2	教科書の本文を理解するときに、説明やヒントがあれば大まか内容を理解することができる。R1			
3	正しい発音や意味の区切りを意識して、適切なテンポで教科書を読むことができる。RT③、④			
4	教科書の本文を理解するときに、多少の未習語があっても大まか内容を理解することができる。R2			
5	日本の伝統文化について書かれている英文を読んで大まかな内容を理解することができる。			
6	正しい発音や意味の区切りを意識して、抑揚をつけて教科書を読むことができる。			
7	教科書の本文を理解するときに、未習語があっても予測して大まか内容を理解することができる。R3			
Speaking 話すこと				
1	飛行機内のアナウンスを聞いて必要な情報をたずねることができる。			
2	レストランの場面で教科書のスキット例を参考にしながら注文したいものを頼むことができる。PT①			
3	地下鉄や電車の路線図を使って、目的地までの行き方を説明することができる。PT②			
4	電話で伝言を伝えたり、聞いた内容を人に伝えることができる。PT③			
5	日本の伝統文化を自分なりの英語で発表することができる。スピーチ発表①			
6	買い物の場面で、色や、サイズ、デザインなど、自分の好みのものを注文することができる。PT④			
7	自分の夢や、目標を自分なりの英語で発表することができる。スピーチ発表②			
Writing 書くこと				
1	時制を適切に考えて英文を書くことができる。W1			
2	身の回りの物などを詳しく説明する文を書くことができる。w2			
3	日本の伝統文化を自分なりの英語で書くことができる。スピーチ作成①			
4	自分の伝えたいことを、理由や思いを交えて書くことができる。レポート作成②			
5	自分の夢や、目標を自分なりの英語で書くことができる。スピーチ発表②			

Performance Test Speaking 2 食事（レストランで）

1、何をするの？

Chanty が店員となり、教科書のレストランでの会話のように、レストランで料理を注文します。

2、具体的にどうすればいいの？

- (1) 出席番号順に、一人ずつ廊下にいる Chanty のところに行き、自分の名前と出席番号を伝えます。(次の人は、教室の前のドアの前で待つ。教室に戻ってきたら、次の人がドアの前で待機している。待っている間はワークシートを見てもいいが、本番になったら見ないこと。)

生徒： Hello. I'm Taro Keimei. My number is thirty-five.

- (2) 枚のカードのうち1枚を引いて、注文するものを決めます。カードに書いてある料理を注文してください。アイコンタクトなどを使って自然なやりとりをしましょう。(制限時間1分)ただし、質問に対する応答に10秒程度の沈黙がある場合は、その時点で終了します。
- (3) 終了したら、Chanty にあいさつをし、教室に戻ります。ワークシートの自己評価を行い、授業の終わりに提出します。

★Conversation 1

店員： Hello. May I take your order?

客： Yes, please. I'll have the New York steak with a baked potato and a Tomato Soup.

店員： How would you like your steak?

客： Medium, please.

店員： All right. Anything else.

客： No, that's all. Thank you.

★Conversation 2

店員： Hello. May I take your order?

客： Yes, please. I'll have Pork Curry and a green salad.

店員： OK. What kind of dressing would you like on your salad?

客： Thousand Island, please.

店員： All right. Anything else.

客： I want my coffee after the meal.

店員： OK.

客： That's all. Thank you.

★肉の焼き加減の伝え方

Well done

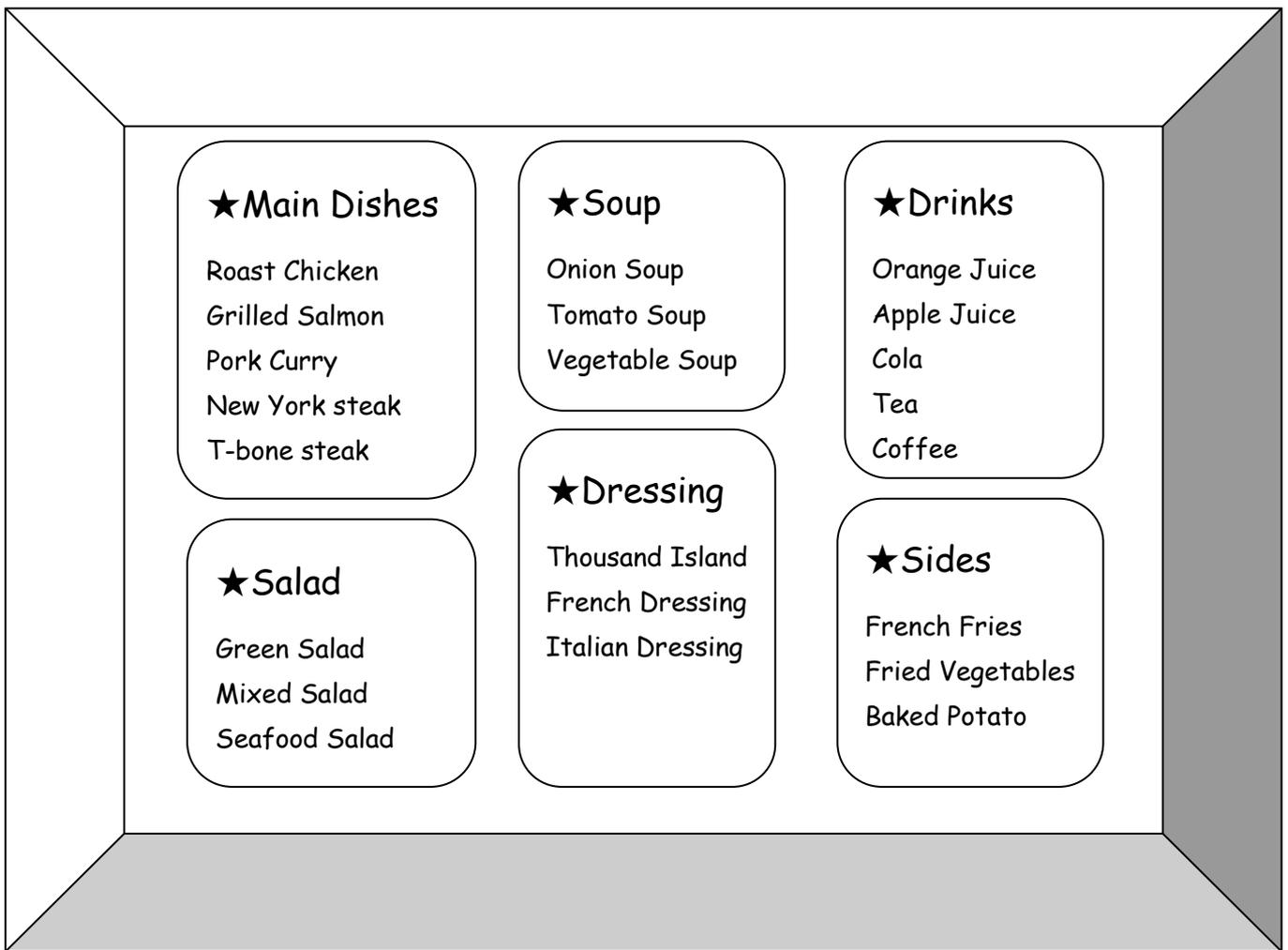
Medium

Rare

★飲み物をいつ出してもらうかを伝える言い方

I want my tea with (before / after) the meal.

MENU



カード例①

- New York steak
の baked potato 添え
焼き加減は medium
- Tomato Soup
- 以上

カード例②

- Pork Curry
- Green Salad
ドレッシング
(Thousand Island)
- 食後にコーヒー

自己評価

Class. No. Name.

評価表をもとに、自己評価しましょう。

1、よくできたこと、頑張ったこと。

2、あまりできなかったこと、これから頑張りたいこと。

3、今回のテストをして思ったこと、感じたこと。

★★評価表★★

Class. No. Name.

項目		評価基準	得点		
関心意欲態度	<話し方> 声の大きさ	はっきりと聞こえる大きな声で話すことができたか	A(2) はっきり聞こえた	B(1) 一応聞こえた	C(0) 聞こえづらかった
	<積極性> アイコンタクト	アイコンタクトをしながら自然に英語を話すことができたか	A(2) 両方ともできた	B(1) どちらかできた	C(0) ひとつもできなかった
表現	<話し方> 発音・アクセント	英語らしい発音や話し方ができたか	A(2) 発音が正確でアクセントも自然だ	B(1) カタカナ英語になるときがあった。一応強弱はあった	C(0) カタカナ英語が多く、強弱が全くなかった
	<言語材料の活用>	質問に対しての適切な応答をすることができたか	A(2) 間違えずに滑らかにできた	B(1) 途切れたり言い直したりしたが、なんとかできた	C(0) できなかった
理解	<言語材料の活用>	英語を正確に聞き取り、質問の内容を理解することができたか	A(2) 聞き直すことなく、正確に聞き取ることができた	B(1) 聞き直したが、正確に聞き取ることができた	C(0) 聞き取れなかった

関心意欲態度	表現	理解

card①

- the New York steak
の Fried Vegetables 添え
- 焼き加減は welldone
- a Vegetable Soup
- 食事と一緒に apple juice

card②

- the New York steak
の French Fries 添え
- 焼き加減は rare
- an Onion Soup
- 以上

card③

- the T-bone steak
の a baked potato 添え
- 焼き加減は welldone
- an Onion Soup
- 以上

card④

- the T-bone steak
の French Fries 添え
- 焼き加減は medium
- a Vegetable Soup
- 食後に coffee

- Pork Curry
- Mixed Salad
ドレッシング
(French Dressing)
- 食事と一緒に orange juice

- Roast Chicken
- Green Salad
ドレッシング
(Italian Dressing)
- 食後に tea

- Grilled Salmon
- Seafood Salad
ドレッシング
(Thousand Island)
- 以上

card⑧

- Roast Chicken
- Mixed Salad
ドレッシング
(French Dressing)
- 以上

card⑨

- the T-bone steak
の Fried Vegetables 添え
- 焼き加減は rare
- a Tomato Soup
- 食前に cola

card⑩

- Pork Curry
- Seafood Salad
ドレッシング
(Italian Dressing)
- 食前に tea

3rd grade Speaking Test judge sheet

Date	/	Class	No	Name
Card Number ()			Evaluation	
関心意欲態度	Voice	A(2)	B(1)	C(0)
	Attitude	A(2)	B(1)	C(0)
表現	Pronunciation	A(2)	B(1)	C(0)
	Grammer	A(2)	B(1)	C(0)
理解	Understanding	A(2)	B(1)	C(0)
Comments				

関心意欲態度	表現	理解
/4	/4	/2

3rd grade Speaking Test judge sheet

Date	/	Class	No	Name
Card Number ()			Evaluation	
関心意欲態度	Voice	A(2)	B(1)	C(0)
	Attitude	A(2)	B(1)	C(0)
表現	Pronunciation	A(2)	B(1)	C(0)
	Grammer	A(2)	B(1)	C(0)
理解	Understanding	A(2)	B(1)	C(0)
Comments				

関心意欲態度	表現	理解
/4	/4	/2